



世界

の

「動植綵絵」

伊藤若冲



伊藤若冲（一七二六—一八〇〇）は京都・錦市場の裕福な青物問屋の跡

取りとして生まれました。一時は家督を継いで家業にいそしみました。が、四十歳にして隠居し、絵師としての活動を本格化させます。円山応挙や曾我蕭白など、個性豊かな絵師たちがひしめく当時の京都にあつて、若冲は独自の画風を確立し、高い評判を得るにいたりました。

一方、若冲は敬虔な仏教徒でもありませんでした。「若冲」とは、相国寺（臨濟宗）の大典禪師から授かった居士（出家しないで仏道修行する者）としての名です。そんな若冲が、およそ十年を費やして描き、みずから相国寺へ寄進したのが全三十幅の《動植綵絵》です。くりかえし登場する鶏をはじめとして、鳥類や昆虫、魚介類など多種多様な動物たちと、色とりどりの草花。大胆な構図と緻密な描写を兼ね備えており、遠くからでも、近づいても、見る者を驚かせます。

若冲は《寄進状》（当館収蔵）に「名を上げるために寄進したのではない。莊嚴（仏を飾り、供養すること）の助けとして、永久に伝わってほしい」との想いをつづり、《釈迦三尊像》三幅とともに《動植綵絵》を寄進しました。実際、《動植綵絵》はきらびやかな花鳥画でありながら、相国寺において儀礼の場を飾るなど仏画のような役割を果たしました。明治二十二年（一八八九）には皇室に献上され、その前年に完成した明治宮殿において外国賓客の接遇などに用いられました。ちょうど一〇〇年間「御物」として過ごしてきましたが、平成元年（一九八九）に上皇陛下と香淳皇后から国へと寄贈され、三の丸尚蔵館の管理するところとなりました。令和三年（二〇二二）には国宝に指定され、国内外の多くの人々を魅了し続けています。



伊藤若冲の代表作

国宝「動植綵絵」 全30幅

動植綵絵

伊藤若冲(1716~1800)
江戸時代(18世紀)
絹本着色、全30幅
皇居三の丸尚蔵館収蔵
各縦141.8~143.4×横78.9~80.1cm



1 芍薬群蝶図(しゃくやくぐんちようず)



2 梅花小禽図(ばいかしょうきんず)



16 棕櫚雄鶏図(しゅろゆうけいず)



17 蓮池遊魚図(れんちゆうぎよず)



3 雪中鴛鴦図(せっちゅうえんおうず)



18 桃花小禽図(とうかしょうきんず)

4 秋塘群雀図(しゅうとうぐんじゃくず)



19 雪中錦鶏図(せつちゅうきんけいず)



5 向日葵雄鶏図(ひまわりゆうけいず)



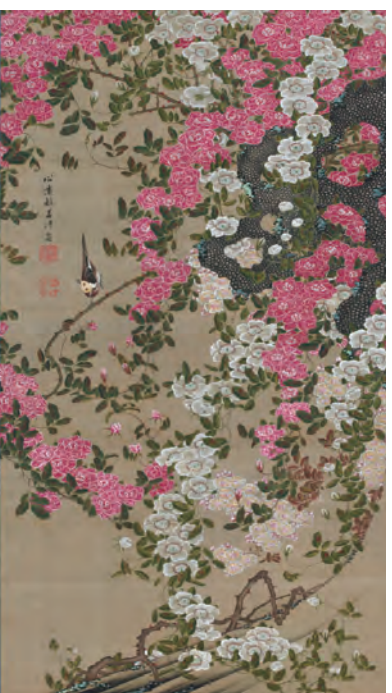
20 群鶏図(ぐんけいず)



6 紫陽花双鶏図(あじさいそうけいず)



21 薔薇小禽図(ばらしょうきんず)



7 大鶏雌雄図(たいけいしゆうず)



22 牡丹小禽図(ぼたんしょうきんず)





11 老松白鶏図(ろうしょうはつけいず)



10 芙蓉双鶏図(ふようそうけいず)



9 老松孔雀図(ろうしょうくじゃくず)



8 梅花皓月図(ばいかこうげつず)



26 芦雁図(ろがんず)



25 老松白鳳図(ろうしょうはくほうず)



24 貝甲図(ばいこうず)



23 池辺群虫図(ちへんぐんちゅうず)



15
梅花群鶴図 (ばいかぐんかくず)



14
南天雄鶏図 (なんてんゆうけいず)



13
芦鶩図 (ろがず)



12
老松鸚鵡図 (ろうしょうおうむす)



30
紅葉小禽図 (こうようしょうきんず)



29
菊花流水図 (きっかりゅうすいず)



28
群魚図 (ぐんぎょず)



27
諸魚図 (しよぎょず)



伊藤若冲と「動植綵絵」を知るためのブックガイド

- ・狩野博幸『目をみはる伊藤若冲の『動植綵絵』』小学館、2000年
- ・宮内庁三の丸尚蔵館編『動植綵絵—若冲、描写の妙技』図録、宮内庁、2006年
- ・佐藤康宏『もっと知りたい伊藤若冲—生涯と作品 改訂版』東京美術、2011年
- ・辻惟雄、太田彩監修『若冲原寸美術館 100% Jakuchu!』小学館、2016年
- ・佐藤康宏『若冲伝』河出書房新社、2019年
- ・辻惟雄『よみがえる天才1 伊藤若冲』筑摩書房、2020年

2025年1月1日発行

編集・発行

皇居三の丸尚蔵館

執筆

上嶋悟史(皇居三の丸尚蔵館研究員)

デザイン

三木俊一(文京圖案室)

撮影

福島省、佐野順一(株式会社インフォマーヂュ)

印刷

株式会社 大熊整美堂

©2025 The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan

本冊子の転売、無断での転載は固く禁止いたします。



朱文長方印「丹青活手妙通神」
(池辺群虫図より)